



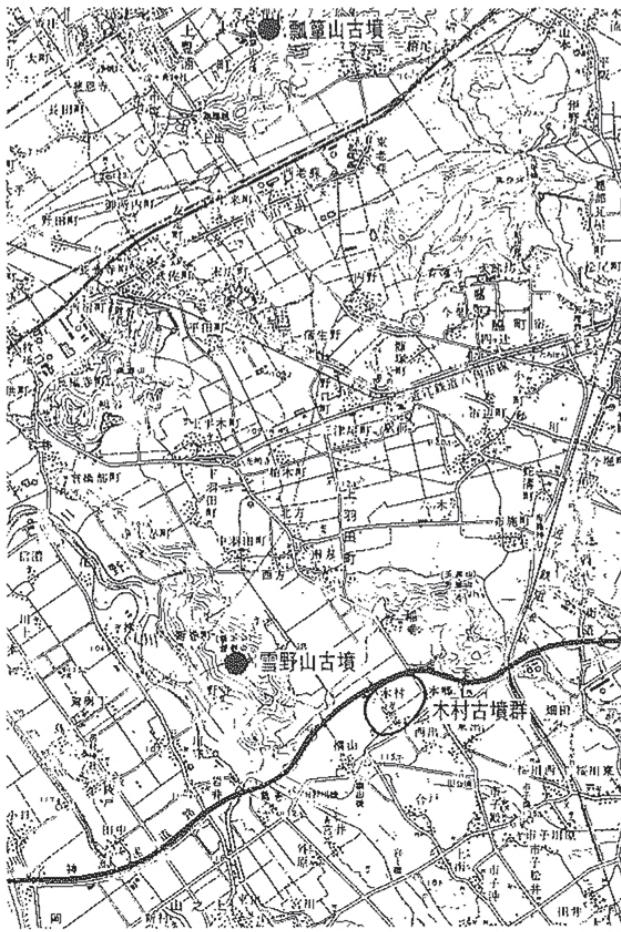
# 木村古墳群

蒲生町教育委員会社会教育課  
主査 田中 浩

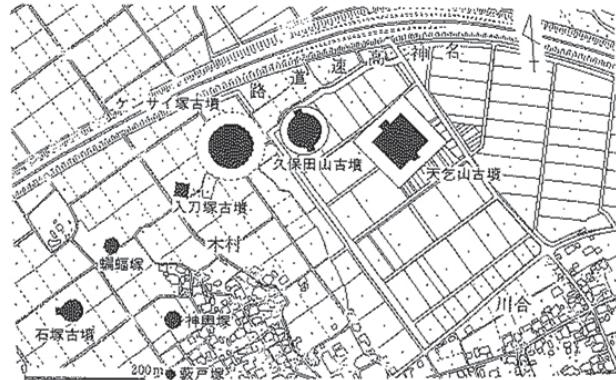
## はじめに

木村古墳群は、蒲生郡蒲生町の北端に位置し、日野川とその支流である佐久良川との合流点から1kmほど北の平野部に立地しています。現在の名神高速道路蒲生バスストップの南西側に広がる水田中にあり、西には雪野山、東には布施山がのぞめます。雪野山山頂に築かれた雪野山古墳（前期古墳・前方後円墳）とは1.5kmの距離に位置しています。

木村古墳群は、行政区画では蒲生町木村と川合にまたがっており、『近江蒲生郡志』には、「大字木には七塚、石塚、盛塚、鍛戸塚、



位置図



木村古墳群の分布

杉の森塚、もりづか、ケンサイ塚等の名を有し古塚ありケンサイ塚は廣く堀を回らし塚土中より埴輪を出す」と記されており、またこれらを「七ツ塚」と呼んでいたようなので、川合地区にある天乞山古墳と久保田山古墳の2基を含めると9基以上あったと思われます。昭和35(1960)年、名神高速道路の建設に関連して行われた木村地区の土地改良事業で、木村地区に現存した全ての古墳がその姿を失いました。

今、ケンサイ塚古墳の跡地には慰靈碑が建てられています。

## 県下最大の円墳・ケンサイ塚古墳の発掘

姿を失った古墳の中でもっとも大きかったケンサイ塚古墳は、滋賀県下では最大の円墳であり、土地改良事業に先立ち発掘調査が行われました。発掘は、同志社大学の酒詰仲男教授を団長とする「ケンサイ塚古墳発掘調査団」が組織され、地元の青年団などの有志とともにに行われました。

調査前のケンサイ塚古墳の形を当時の地形図や写真で見ると、台錐形をなしており、東



木村古墳群全景(昭和35年撮影)

に細い水路を隔てて細長く土壇が延び、墳丘の北半部には周濠状のため池が巡っていたようです。調査の報告によれば、墳丘は直径70~80m・高さ約10mの円墳で、墳丘の周囲には周濠が巡っていたとされています。墳丘は墳頂部が狭く円錐形に近く、中ほどに段があり二段築成であったようです。

埋葬施設については、墳頂部から小規模な石室の残欠と幅1m、長さ2mの粘土櫛など複数の埋葬施設が確認されています。粘土櫛内からは剣・太刀・鉄鎌・小刀・刀子・鉈・丁斧・鎌・鍬のほかミニチュアの鉄製品や木製櫛などの副葬品が出土しました。ほかに墳頂部からは多数の家型埴輪・円筒埴輪が出土しています。ケンサイ塚古墳の築造時期は、副葬品や埴輪や周辺から出土した土器などから5世紀代中頃と考えられています。

このような内容を持つケンサイ塚古墳は、円墳とすると最大級ですが、短い前方部が付いた前方後円墳の一種である帆立貝式古墳の可能性も考えられます。

このほか未発掘のまま消滅した古墳の中には円墳で直径35m、高さ5m、周濠幅15mの石塚古墳や、数十本の太刀が出土したことからその名が付いたと伝える入刀塚古墳などがありました。

古墳が築かれた範囲は分布図で示したように天乞山古墳を東限とした東西800mの範囲と考えられます。

### 県下最大の方墳・天乞山古墳

古墳の姿を残しているのは先に述べたように川合地区にある天乞山古墳と久保田山古墳ですが、この2基も水田中にあったことから昭和50年代に始まったほ場整備事業で破壊の危機に直面しました。しかし将来史跡整備をして公園として活用することを条件に地元の理解と協力を得て保存することに決定されました。

そして、ほ場整備事業に先立つ確認調査(昭和55~58年度)や史跡整備のための調査(平成3~7年度)によって、その内容が明らかになりました。

まず天乞山古墳は古墳群中、最も東に位置する方墳です。一辺ほぼ65mの方形で南北両側に「造り出し」と呼ばれる長方形の張り出しが付いています。

造り出しは、何のために造られたものか明らかではありませんが、他地域の古墳の造り出しより多量の土器類の出土や埴輪による方形区画が発見されていることから、ここを祭祀を行った所つまり祭場とする考え方が有力視されています。

墳丘の高さは現況で約9mですが、土が流されて低くなっています。もとは11mを越す高さであったと推定されます。下段のテラスは高さ2.4mであり、上段の規模は裾部で一辺45m前後、高さは9m近くあったと推定されます。



天乞山古墳

南側の造り出しあは、中央からやや西にずれて位置し、その大きさは、幅8.7m、長さ6.8mです。北側は中央に位置し、幅15.5m、長さ11mと南に比べ2倍近い大きさに造られています。

この古墳は、一般的な二段築成の古墳と比べると上段の規模が大きく、4倍近い高さに造られています。

周濠は四周を巡り、幅22~25mですが、あまり深くなく1mほどで、空堀であったと想像されます。

この天乞山古墳は、方墳の中では滋賀県内では最大であり、これほどの巨大な方墳は全国的にも数が少なく、一辺が60mを越すような方墳としては10数例しか知られていません。全国で知られる最大の方墳は、奈良県橿原市鳥屋町に所在する耕山古墳（墳丘長98m）で、続いて竜角寺岩屋古墳（墳丘長86m、千葉県印旛郡栄町）・淨元寺山古墳（墳丘長70m、大阪府藤井寺市）で、天乞山古墳はそれに続く大きさです。また、二つの造り出しが持つ方墳の類例も少なく、三重県安芸郡安濃町の明合古墳（墳丘長60m）などわずか5例が知られているにすぎません。

墳丘の裾まわりには、葺石と呼ばれる石を貼り付けています。葺石は、土砂の流出を防止するためや、古墳自体を美しく見せるために貼っています。この葺石の岩質は大半が近隣の雪野山あるいは布施山産の湖東流紋岩という溶結凝灰岩の一種で、人頭大に割ったものを丁寧に貼り付けています。

埋葬施設は、これまでに幾度もの盗掘を受けて壊されており、墳頂部の中央には大きくなくぼみがありました。このくぼみには天井石とみられる幅1m、長さ2mを超す大型の石が3個落ちこんでおり、また石室の側壁とみられる偏平な割石も多数散乱していました。このような状態であったため石室の構造・規模については不明です。しかし石室を造る時に最初に掘った穴（墓壙）が発見され、その

大きさが、およそ長さ9.5m、幅5.5mあり、その規模や形態から、東西方向に長軸を持つ長さ6~8mの長大な竪穴式石室があったと推定されます。

埴輪は造り出し部付近より円筒埴輪や朝顔型埴輪などが出土しており、この部分を中心に立て並べていたとみられます。造られた時期は、出土した埴輪から5世紀前葉に推定され、本古墳群中で最も古い古墳であると考えられます。



久保田山古墳

### 提灯形の古墳・久保田山古墳

久保田山古墳は天乞山古墳の西に位置する円墳で、南北2方向に造り出しが造られており、平面形が提灯のような形をしています。墳丘は二段築成で直径57mあり、高さは現状で6.1mですが、後世に著しく土取りがなされており、元の大きさはもう少し高かったでしょう。造り出しあはいずれも四角で、南側の造り出しひの規模は幅15.4m、長さ12.5mあります。北側の造り出しあは南側に比べ一回り小さく幅13.4m、長さ8.2mです。周濠は最大幅14mで、外側ラインは南側造り出しひ付近で2~3m膨らむ卵形をなしています。なお、本来このような形の古墳は、双方中円墳あるいは造り出しひ付き帆立貝式古墳と呼ぶこともありますが、天乞山古墳の形を造り出しひ付き方墳と呼んでいることから、用語を統一する意味で円墳の一種として名付けています。

葺石は墳丘裾部及び上段部斜面には貼られ



埴輪列(久保田山古墳)

ており、天乞山古墳と同様、湖東流紋岩を径が人頭大～50cmぐらいに割って敷き詰めています。

下段のテラスには円筒埴輪が約0.6m間隔で立てられた所が数ヵ所で見つかっており、墳丘を一巡りするように立てられていたと考えられます。また、南側造り出し付近から蓋型埴輪の破片などが出土しており、造り出しの中に形象埴輪などが並べられていたと推測されます。築造時期は円筒埴輪などの特徴からすると、天乞山古墳とさほど時期差がなく、天乞山古墳にまもなく続いて築造されたとみられます。なお、本古墳の南西では奈良時代の溝跡が見つかり、その中から弓矢・鹿をヘラ状もので線刻した珍しい円筒埴輪が出土しています。この埴輪は5世紀後半のもので、久保田山古墳の埴輪とは異なっており、またケンサイ塚古墳とも時期が違うので、未だ確認されていない別の古墳がこの近くにあったことが想像されます。

### 葬られた人々

このように、木村古墳群では、天乞山古墳が最も早く5世紀前葉に築造され、次いで久保田山古墳、ケンサイ塚古墳（5世紀中頃）と続いて築造されたとみられます。石塚古墳、入刀塚古墳については不明ですが、それに続く時期の築造である可能性が高く、したがって、木村古墳群は6世紀初め頃まで続いた古

墳群と考えられます。

では、以上に述べた木村古墳群に埋葬された人々はどのような性格を持つ人達であったのでしょうか。

木村古墳群は先に述べたようにいずれも規模の大きな古墳で、造り出しの付く円墳または方墳の墳丘を持ち、前方後円墳に匹敵する規模・形状を備えた古墳とみることができます。したがって、木村古墳群はまさに、首長（王）の墓として築造された古墳群とみなすことができるでしょう。しかし、通常みるような前方後円墳が築造されなかったのは、湖北を除く、湖西・湖東・湖南地域と共通点が多く、これは大和王権と近江の首長層との関わり合いが大きく反映されたものとみられます。

木村古墳群に葬られた一族は、日野川流域では最大の勢力をもった族長であったと考えられます。そこに埋葬された豪族は、近接する前期の首長の墓である雪野山古墳と同族であった可能性が高いと思われますが、残念ながら大半の古墳の埋葬施設が壊されており、手掛かりとなる副葬品等が見つかっていないこともあって、不明な点が多く、今後に残された大きな課題と言えるでしょう。

### よみがえる王族の墓

現在、天乞山古墳と久保田山古墳は、遺跡を保存し、生涯学習や学校教育に活用することを目的に平成4年から5ヵ年を要して復元工事を進めています。平成9年3月には古墳公園として完成する予定であり、千五百年前の当時の姿によみがえった古墳群を見ることができるでしょう。

滋賀文化財教室シリーズ No.161号

発行年月日 1996年10月21日  
編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会  
〒520-21 大津市瀬田南大萱町1732-2  
TEL(0775)48-9780 FAX(0775)43-1525